

令和七年度 熊本県立大学 文学部 日本語日本文学科
一般選抜試験問題（前期日程） 国語 解答例

【一】（現代文）

問一

- a かんばん（別解 こうはん）
b 繁栄
c あと
d 荒涼
e 弾

問二 空襲（別解 空爆／爆撃）

問三 筆者にとっては焼跡としての東京が、少年時代に体験した原風景であったから。

問四 ウ

問五

- バラック的な建築 ○
鉄骨とコンクリートの本格的なビル ×
日曜・祭日と…照らす街路 ×
盛り場 ○

問六 ア

問七 互いにしめし合わせて事を行うこと／もたれあい

問八 廃墟を構成する瓦礫や残骸、発達した都市を形作る高層ビルや高速道路は、いずれも無機質で人間の生活・ぬくもりなどが感じられないという点で共通している。そして、「世界の本来のイメージ」とは、そのような要素が喚起する、人間や生命の存在を相対化するほどの、永遠とも言える長い時空に存在し続ける宇宙や、無機的な物ばかりであったろう原初の世界のようなイメージを言う。

（二七六文字）

【二】(古文「文法」)

問一

- ア サ行変格活用・未然形
イ ワ行上一段活用・未然形
ウ ラ行四段活用・終止形

問二

- A 「たり」の一部
B 「り」の連体形
C 「与ふ」の一部
D 「要す」の一部
E 「ず」のザリ活用の一部

問三

- ① 過去の助動詞「き」の連体形
② 強意の副助詞「し」(「しも」も可)
③ サ変動詞「加味す」の活用語尾で連用形

問四

Cの「ば」は接続する動詞が「なす」の未然形であるので仮定条件の用法であり、他は確定条件の用法である。

問五

連体形、連体形、連用形、連用形、終止形

【三】（古文〔読解〕）

問一

- ① お考えになって（取り計らって・思い計って）、お教え（お答え・仰って）ください。
② いい加減ではないものである。（すばらしいものである。）

問二

X べき・ア Y べし・イ Z べから・ウ

問三

- 尼の身には相応しくなく、おもしろくないと思ったから。
- 奈良では、山王（日吉山王）をそんなに信仰していないと思ったから。

問四

ウ

問五 正直の者（「直しき心」は部分点）

問六 筆者（衆生）が八幡大菩薩に対してかたじけなく感じている。

問七 ア・エ

【四】（漢文）

問一

- ① ごとし ② すなわち ③ いえども ④ あたわ

問二 私は仙人だ。どうして拝まないのか。

問三 （2）

問四 士人未だ答ふるに及ばず

問五 薄命なので薬を二錠飲んではないという道士の言いつけを守らず、奪い取って二錠飲んでひどい目にあつたため、道士に会わせる顔がなかったから。